

旭化成

『ベンリーゼ』糸に反響

スリットヤーン本格化へ

旭化成はキュプラ長繊維不織布「ベンリーゼ」に本格販売を目標に開発のポートフォリオ転換に
取り組む。既存用途が成熟する中で「今後の成長には変わる必要がある」（森嶋誠ベンリーゼ営業部長）とし、その一つがスリットヤーンになる。ユプラ繊維「ベンベルク」今までなかった衣料用とは違い、太繊維系が可

能で、スリット幅を広げれば220デニール系以上も対応できるスリットヤーン。一の不織布で昨年事業化50周年を迎えた。ベンベルクと同じく、コットンリッター（綿花の種の周りを産毛）を原料とし、



スピンエキスポで初披露したスリットヤーン製ドレス

強度や低目付などからスリット、擦糸の技術難度も高く「まねができない商品」としても位置付けられるほか、各種生分解性の認証も取得しているため、サステイナブル素材としても打ち出す。ベンリーゼは世界で唯一の不織布で昨年事業化50周年を迎えた。ベンベルクと同じく、コットンリッター（綿花の種の周りを産毛）を原料とし、

自己接着するため不純物が少なく、長繊維のためリント発生も短繊維不織布に比べて少ない特徴からフェースマスクや工業用ワイパー、医療ガーゼなどに販売する。今期はフェースマスク用で国内販売が活況な上、低迷していた中国、韓国向けも底打ち感が見られ、設備稼働率が向上。好業績となる見通しにある。